

なかよし月間を
迎えるにあたり

～縁を生かす～

その先生が5年生の担任になった時、1人、服装が不潔でだらしがなく、どうしても好きになれない少年がいた。

中間記録に先生は、少年の悪いところばかり記入するようになっていた。

ある時、少年の1年生からの記録が目にとまった。

「朗らかで、友達が好きで人にも親切。勉強もよくできて将来が楽しみ。」とある。

間違いだ！他の子の記録に違いない！先生はそう思った。

2年生になると

「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する」と書かれていた。

3年生では

「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りする。」

3年生の後半では

「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる」とあり

4年生になると

「父は生きる希望を失い、アルコール依存症となり子どもに暴力を振るう」とのこと。

先生の胸に痛みが走った。

ダメだと決めつけていた子が突然、

深い悲しみを生き抜いている生身の人間として自分の前に現れてきたのだ。

先生にとって目を開かれた瞬間であった。



放課後、先生は少年に声をかけた。

「先生は夕方まで教室で仕事をするからあなたも勉強していかない？ わからないところは教えてあげるから。」

少年は初めて笑顔を見せた。

それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。

授業で少年が初めて手を上げた時、先生に大きな喜びがわき起こった。

少年は自信を持ち始めていた。



クリスマスの日の午後だった。

少年が小さな包みを先生の胸に押し付けてきた。あとで開けてみると、香水の瓶だった。

亡くなったおかあさんが使っていたものに違いない。

先生はその1滴を付け、夕暮れに少年の家を訪ねた。

雑然とした部屋で独り本を読んでいた少年は先生に気がつくとすぐに飛んできて、先生の胸に顔を埋めて叫んだ。

「ああ！お母さんの匂い！今日は素敵なクリスマスだ！先生ありがとう。」

6年生では少年の担任ではなくなった。

卒業の時、先生に少年から1枚のカードが届いた。

「先生は僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で1番素晴らしい先生でした。」



それから6年。またカードが届いた。

「明日は高校の卒業式です。

僕は5年生で先生に担任をしてもらって、とても幸せでした。

おかげで奨学金をもらって医学部に進学することができます。」



10年を経て、またカードが届いた。

そこには先生と出会えたことへの感謝と父親に叩かれた経験があるから

患者の痛みのわかる医者になる。と記され こう締めくくられていた。

「僕は5年生だった時の先生を思い出します。

あのままダメになってしまう僕を救ってくださった先生を、神様のように感じます。

大人になり、医者になった僕にとって、最高の先生は、5年生の時に担任してくださった先生です。」

そして1年。届いたカードは結婚式の招待状だった。

「母の席に座ってください」と1行書き添えられていた。

たった1年の担任の先生とのご縁。

その縁に少年は無限の光を見出し、それを拠り所として、

それからの人生を生きた。ここにこの少年の素晴らしさがある。

人は誰でも無数の縁の中に生きている。

無数の縁に生まれ、人はその人生を開花させていく。

大事なものは、与えられた縁をどう生かすかである。



これは、聖心会シスターの鈴木秀子先生から教えていただいた実話エピソードとして、この本の著者によって紹介されていたものです。かつて、県内でも教育関係情報誌に紹介されていましたが、ご存じの先生方もいらっしゃるかと思います。そこでは、「先生って

いう仕事は大変だけど、やりがいのある素晴らしい仕事ですよ。

私たちも人として人を幸せにする事ができるよね…」と綴られていました。

私たち自身が子ども達へ与える(影響の)大きさと、受け取る素直な心をいつまでも大切にしていきたいと思いました。

★鈴木秀子 すずき・ひでこ

聖心会シスター

1932年静岡県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。フランス、イタリアに留学し、ハワイ大学、スタンフォード大学で教鞭をとる。聖心女子大学教授を経て、国際コミュニケーション学会名誉会長。近著に『機嫌よくいれば、だいたいのことはうまくいく。』（かんき出版）

なかよし月間が始まりました。私たちは、あらゆる教育活動の中で、人権について日頃から自問自答しながら向き合う場面があるかと思います。目の前にいる子ども達への捉え(児童理解)は確かなものか、主観的な固定観念に捉われてはいないか、この子の心の奥底にある本音に耳を傾けようとしているか、等々、私自身も自分に問いかける大事な機会としたいものです。東小学校の職員として、あらためて人権感覚を研ぎ澄ませ、子ども達とあたたかなメッセージのやりとりができたならと願っています。よろしくお祈りします。